

## 第4分科会

【演題等】【スクールワイドPBSを活用した学校づくり】から  
生徒指導のこれからのあり方を考える

【講演・発表者】大阪市教育委員会 教育活動支援担当生活指導グループ

総括指導主事 堀川 直樹

大阪市立井高野中学校 教頭 谷川 雄一

### ・発表概要

- 1 大阪市立井高野中学校における、PBS 導入にかか  
る経緯について
- 2 PBS について
- 3 PBS 導入後について
- 4 まとめ



### ・発表要旨

#### 1 大阪市立井高野中学校における、PBS 導入にかか る経緯について

- ・開校以来、生活指導上の課題に悩まされ続けた井高野中学校へ赴任し、学校を立て直すべく、毅然とした指導を根気強く行った。
- ・結果、3年経った頃には、校内に一定の秩序が作られた。学習環境が整い、生徒達が【自分の未来に向かって力を蓄え、巣立っていく場】を作ることができたと思った。
- ・そんな矢先、進学した卒業生181名のうち、40名が1年持たずに退学となったことを知り、この事実大きなショックを受けた。
- ・また、赴任4年目には、自分が離れた学年団の指導が統一されなくなり、不適切な指導やブレが頻発し、学級崩壊が相次いだ。
- ・この2つの事実より、「生徒へのアプローチが違えば、違う結果があったのではないか」と思い、指導方法を模索する中、PBS と出会った。
- ・当初は、自分自身が PBS を受け入れ難かったが、今後の指導の在り方を見据え、検討の未導入することとなった。

#### 2 PBS について

- ・PBS とは (Positive Behavior Support) の略で、要約すると、「ポジティブな関わりによって、子どもたちの望ましい行動を増やしていく」。学校全体で行っているので、「スクールワイドPBS (SWPBS)」という取組になる。
- ・PBS は「応用行動分析学」に基づいており、その中に「行動の原理」「行動の強化・弱  
化」というものがある。

#### ○「行動の原理」

人間の行動にはすべて理由があり、その理由に付随することがその人にとって【価値のあるもの】や【感じやすいもの】であると、より促進されるという原理。

例：学校にはよく遅刻するが、部活や友達との約束には遅れない。

⇒その生徒にとって、部活や友だちとの約束は「価値のあるもの」だから「約束の時間を守る」という行動が促進されている。

⇒「学校」に対しては価値を感じていないため、「登校時間を守る」という行動が促進されていない。

### ○「行動の強化・弱化」

「行動の強化」とは、「行動の原理」を強める刺激。「行動の弱化」は「行動の原理」を弱める刺激。

強化の例：テスト勉強を頑張ったから、いい点数が取れた。

⇒成功体験によって「テスト勉強を頑張る」という行動が強化される。

弱化の例：授業中に騒がしくしたら、とても叱られた。

⇒失敗体験やペナルティによって「授業中騒がしくする」という行動が弱化される。

・PBSは、これらに基づいた「望ましい行動を増やすアプローチ」によって、望ましくない行動が減少した結果として、問題行動が減少するという理論。

・PBS導入以前は、「部活や友達との約束には遅れないのに、学校に遅刻するのはおかしい。サボっている。」といった、「行動の原理」に基づかないネガティブな指導や、「△△するな」「◇◇はだめだ」のような、望ましくない行動をさせない指導、つまり「行動の弱化」に重きを置いた指導によって、問題行動を抑え込んでいた。

・このことが生徒や保護者の不信感を生み出すことになり、学校の指導体制の崩壊につながったと考察している。

・PBSにおける教員のアプローチは、「ほめる」「認める」（ポジティブフィードバック（PF））を意識的に行うという単純なもの。

※PFを行う際に重要なPoint

◇「目的達成（子どもたちの成長を支える）にもっとも効果的なアプローチ（その人物のキャラクターや、人間関係を踏まえた）は何か」ということ。

◇目的が「個人に対して」なのか「集団に対して」なのかを教員が的確に判断すること。

### 3 PBS導入後について

・PBSの考え方に基づいて校内を見た時、生徒委員会の目標が「授業に遅れない」「風邪をひかない」「人に迷惑をかけない」というネガティブな働きかけばかりだった。

・PBS導入後は、教員の働きかけによって、「時間を守ろう」「健康に過ごそう」「お互い思いやりをもって過ごそう」というポジティブな表現に変化した。

・アプローチ方法は、声かけ、ジェスチャー、手紙、シールなど。

※「いいね!」や「ナイス!」という即興的なPFも一定効果はあるが、「先生は君のそんなところが素敵だと感じているよ」「君がこんなことをしてくれたからみんなが助かった」などのように、具体的であればより効果が高い。

・具体的な取組の例は次のとおり。

◇教員がそれぞれ授業1時間あたり15回のPFを目標に取組をスタートさせた。

⇒当初は、生徒集団が大きく課題を抱えた状況だったため、目標達成が難しいと捉えた教員も多かったが、空き時間の教員が「PF役」として教室に入り、PFに専念することで目標達成を目指した。

◇ネガティブな指導の後、変化した姿に対してPFを行うという手法を取り入れた。

◇「望ましくない状態」と「望ましい状態」を生徒に意図的に作らせて動画で撮影して、全体周知に努めた。

※動画については、学級ごとに作成し、周知に使用する動画をコンクール形式にして取り組んだため、生徒の興味関心を引き出すことができ、効果は大きかったと感じる。

・私自身を含め、教員の中に「教員にとって困った行動を減らす」から「生徒にとって

望ましい行動を増やす」への思考の転換が生まれた。

・当初は大変だったが、PBS 導入後半年以降、月当たりの保護者召喚を必要とするような大きな事案件数が減少していった。

・それらを教員が数字で理解することで、PBS の取組がより促進されたと感じている。

#### 4 まとめ

・取組を初めて今年度で6年目。教員にはPBSの考えが定着し、生徒の姿も大きく変化した。学校全体が落ち着いた雰囲気教育活動を行えている。

・「不登校生徒への支援」に対しても、学校教育目標である「誰一人取り残さないきめ細やかな指導」「一人ひとりの生き抜く力を育む」に基づいて、個別の目標をケース会議において設定し、校内フリースクールにおいて、PBSの手法を用いてアプローチしている。

・PFによって生徒たちの自己肯定感が高まり、「生徒会活動」が活発になるなど、教育活動全般において生徒が能動的になったと感じている。

#### ・質疑応答の概要

Q1：PBSを導入し、教員に定着させていく過程はどのようなものだったか。

A1：これまで転勤してきた教員も最初は戸惑いがあったが、そもそもPBSは考え方の変換に伴うアプローチ方法の転換であり、難しいことはない。どの先生方もPBS正しく理解し、実践してくれている。

Q2：教員の入れ替わりにより、取組が薄まるなどの変化はなかったか。

A2：この部分は、導入当初より今後起こりうる課題と捉え、次のように進めてきた。「取組の本質を正しく理解し、【子どもたちのために】を常に念頭に置く」ために、学校の年間行事計画にPBSの研修を常に盛り込み、取組が形骸化しないように努めた。また、教員の教育観や価値観によって全体の指導がずれないように、PBS導入から、学校全体としての目標を定めてきた。また、目標についても、達成するごとに次のように変更していった。

「問題行動の減少」⇒「学校肯定感の向上」⇒「学力・得点力の向上」

さらには「PBSを取組から『文化』に昇華させる」＝「コミュニティワイドPBS（学校内だけでなく、地域全体で）」ことを最終目標とし、そこまで発展させるべく、地域と連携を進めている。

#### ・記録者雑感

分科会の中で、実際に井高野中学校の教員研修として実施したワークを参加者で行ったことで、PBSに対する理解や、井高野中学校が進んできた流れを実感いただけたと感じている。

これからの生徒指導の在り方について、参加いただいた先生方とともに考えることができたので、たいへん有意義な時間になったと感じている。